

## 第 13 回研究大会概要

(1996 年度会報より)

第 13 回研究大会の主な内容は、次のとおりであった。

(1) 日時：1996 年 11 月 30 日 (土) 13:40-18:00

12 月 1 日 (日) 9:30-15:00

(2) 場所：東亜大学 2 号館

(3) 研究発表

統一論題報告 (11 月 30 日 13:40-16:10)

テーマ：「国際的視点から見た企業会計原則の見直し」

コーディネーター：平松 一夫 (関西学院大学)

報告者：寺坪 修 (産能大学)

「企業会計原則—実質優先思考からの見直し—」

徳賀 芳弘 (九州大学)

「国際会計的視野から見た日本の企業会計の特徴と『企業会計原則』」

北村 敬子 (中央大学)

「会計基準の国際的調和とわが国企業会計原則」

広瀬 義州 (早稲田大学)

『企業会計原則』の見直しに伴う課題」

コメンテーター：松井 泰則 (立教大学)

野村健太郎 (神戸商科大学)

パネル・ディスカッション (9 月 30 日 16:30-18:05)

チェアパースン：藤田 幸男 (愛知学院大学)

パネリスト：Thomas W. Whitson (KPMG)

Michael J. Buxton (EY)

自由論題報告 (12 月 1 日 9:30-12:05)

司 会：中田 信正 (桃山学院大学)

報告者：井上 徹二 (阪南大学)

「イギリス所得税・法人税の構造と特徴

—日本と米国との比較論的考察—

山地 範明（京都産業大学）

「EU加盟国における連結会計基準の調和化」

司 会：古賀 智敏（神戸大学）

報告者：柴 健次（関西大学）

「金融商品の時価評価とヘッジ会計」

西澤 茂（東京理科大学）

「公正価値会計の有用性」

司 会：今福 愛志（日本大学）

石井 康彦（明治学院大学）

「アメリカの企業年金会計の生成過程」

ナバロ・バレンティン（岡山大学）・佐藤 倫正（岡山大学）

「ペルーの会計制度」

司 会：松尾 聿正（関西大学）

向 伊知郎（愛知学院大学）

「連結財務情報の比較可能性」

田代 樹彦（松阪大学）

「情報環境の変化と会計ディスクロージャー」

統一論題討論（12月1日 13:00-15:00）

コーディネーター：平松 一夫（関西学院大学）

報告者：寺坪 修（産能大学）

徳賀 芳弘（九州大学）

北村 敬子（中央大学）

広瀬 義州（早稲田大学）

コメンテーター：松井 泰則（立教大学）

野村健太郎（神戸商科大学）

懇親会

懇親会は、11月30日18:30より、東亜大学コミュニティセンターにおいて、川北博準備委員の司会により開催された。榎田薫東亜大学理

事長及び安部一成東亜大学学長より歓迎の挨拶があったのち、小川会長の挨拶、続いて本学会の初代会長染谷恭次郎早稲田大学名誉教授が乾杯の音頭をとり、開演した。歓談の後、20時30分に盛会裡に閉会した。